

沖縄10年内に大地震も

仲座琉大教授「避難場所認識」訴え

地震大国といわれる日本。沖縄も例外ではな
い。2010年2月には、沖繩本島近海を震源地と

事例もある。文部科学省
地震調査研究推進本部が
10年5月に公表した「全
国地震動予測地図」によ
ると、那覇市の今後30年
以内には震度6弱以上の地
震が発生する確率は24・
9%もあり、全国19位と
比較的上位にある。

踏まえて、防災・減災対策
に取り入れていくべき
だと強調する。

広範囲で浸水
仲座教授は、沖繩本島
で東日本大震災同様の津
波がきた際の予測をまと
めている。それによる
と、那覇市をはじめ県内
多くの市街地が水没する
超えた津波を想定した上
「住宅地図」特許を取得
から発信したい」と話す。

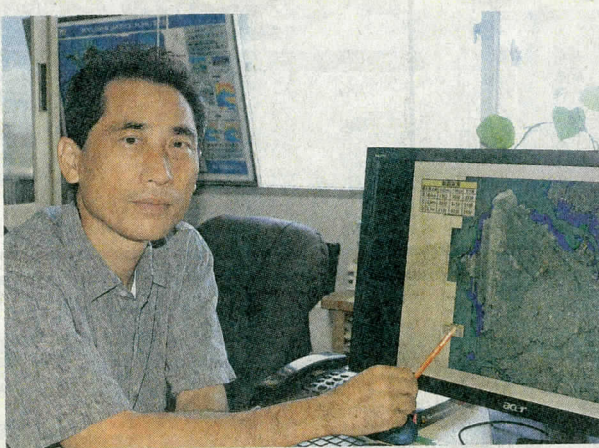
見直し進む防災計画

歴史踏まえて

県地域防災計画の見直
しに向けた県地震・津波
想定検討委員会の委員長
を務める琉球大工学部の
仲座栄三教授（防災工
学）は「東日本大震災で
わかったように、私たち
が手本としてきた従来の
先進事例、シミュレーシ
ン上で「歴史が示す数値を
さされる可能性が高い。

国や自治体の防災計画
は、阪神大震災や中越地
震など大きな災害がある
データによると、沖繩周
辺では約250年に1回
の周期で起こっており、
「1771年の『明和の大
津波』は240年前。
沖繩周辺の海底地すべり
も頻繁にあり、いつ大津
波が起きてもおかしくな
い状況と指摘する。その
難所や浸水予想域が変更
そうとしている。

国、都道府県の計画を
では見直された情報が
発表されるまでの間、住
民は何を基準とすればい
いだろうか。県防災危機
管理課の担当者は「変更
前のものでも、地域のど
んなところが危険なの
か、どこに高い場所があ
るかなどを知ることはで
きる。津波対策の基本は
まず逃げる。持ち出す
ものや落ち合う場所な
どを日常的に話し合っ
て確認してほしい」と呼び
掛けた。



「歴史を踏まえ、海抜5m以内は浸水エリア、10mの高さの津波を想定した防災計画が必要」と語る仲座栄三教授（琉球大学工学部）